

おのえづわ

第202号



写真撮影：富井純朗氏



御挨拶

宮司 吉田源彦

青葉の頃となり、皆様方には御健勝のこととお慶び申し上げます。

天皇陛下におかれましては、御即位三十年をお迎えになられ、さらに皇太子同妃両殿下にはこの六月九日に御結婚二十五周年となりますこと、心より慶祝申し上げます次第です。御皇室のかかる慶事は国民のともにするところであり、本社におきましては境内に懸垂旗を立て御即位三十年の奉祝の意を表明させて頂くとともに、手水舎には天皇皇后両陛下の御製・御歌を掲げ、参拝の方々に両陛下の御心に少しでも触れて頂けるようにしました。かかる御皇室の慶事を通して国民一人ひとりが御皇室に対する敬愛の念を醸成されることを願ってやみません。あらためて御皇室の弥栄をお祈りするところです。

さて、多くの市民の皆様には札幌まつりと呼び親しまれてきた北海道神宮例祭を迎える季節となりました。本年は第六西創成祭典区に年番をお受け頂き、皆様の協力のもとに祭典の準備を進めてまいりました。札幌まつりも、百三十九回目を迎えることとなります。明治十一年の神輿渡御に始まり、札幌の街が都市として整備されて行くなかで、次第に祭礼行事として盛大さを加え、今日では札幌の夏の風物詩ともなりました。本年は特に北海道百五十年、開拓神社が創建されて八十年という佳節にもあたり、さらには現在の頓宮が本社の遙拝所として造設されてより百四十年となります。戦時中には祭りの一時中断があったとは言え、今日まで市民まつりとして親しく受け継がれてきたことは、先人の多くの御苦労と札幌市民の当神宮へのご崇敬によるものであることと、心より御礼申し上げます。

伝統と文化、そして信仰の結晶である札幌まつりを今年も盛大に斎行するために、皆様方のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

年番奉仕にあたり



第六西創成祭典区代表委員長
敬神講社 講長 **松野 哲也**

平成三十年度の北海道神宮敬神講社年番、ご奉仕にあたり、第六西創成祭典区役員を代表いたしまして一言、ご挨拶を申し上げます。

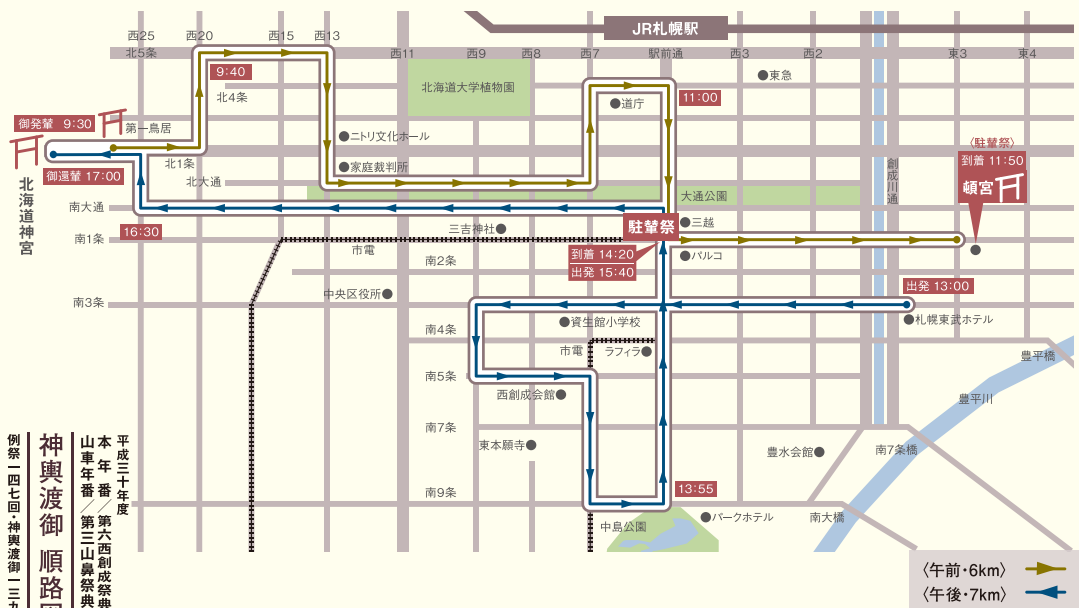
昨年十月十七日、新嘗祭並びに年番引継ぎ式が斎行され、吉田宮司様より敬神講社旗をお預かりするとともに、第四豊水祭典区様より年番の引継ぎを受けて以来、北海道神宮神職様を始め、各方面の皆様方のご指導、ご協力をいただき準備を進め万全を期してまいります。

私ども第六西創成祭典区は戦後、今回で七回目の年番、ご奉仕でございますが、振り返って見ますと昭和四十年の年番の年は、前年の昭和三十九年十月五日、明治天皇が札幌神社に御増祀され、札幌神社から北海道神宮に昇格改称された慶祝の年でありました。初めて総勢千二百名を超える神輿渡御の行列は、四神のご鳳輦と京都平安神宮の時代祭をモデルとした維新勤王隊、山車八基の祭りばやし、鳴り響き、街中が祭り一色となり古式ゆかしい伝統ある行列の絵巻の姿が今も目に焼きついています。

今年で三九回目の札幌まつりが天候に恵まれ、この歴史と伝統ある札幌まつりが脈々と受け継がれることを祈念申し上げ、北海道神宮様、各祭典区の皆様、そして関係各協力団体の方々のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。

神輿渡御 順路図

平成30年度 本年番／第六西創成祭典区



渡御隊列図(鳳輦4基)

第 4 班				
20	19	18	17	16
稚児	先乗童子	猿田彦	社名旗	先祓



第 3 班					
15	14	13	12	11	10
むすび会旗	佼祇講旗	一日講社旗	祈講講旗	一日講社・むすび会	各祭典区代表委員



第 2 班					
9	8	7	6	5	4
札幌まつり振興会	副講長車	講長車	年番祭典区旗	敬神講社旗	萬燈



第 1 班		
3	2	1
年番区長旗	年番役員車	先導車・総括車



市広報車

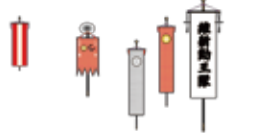
第 8 班							
47	46	45	44	43	42	41	40
菅駱	第三鳳輦	紫駱	比礼鉾	御桶	神名旗	朱傘	神職



第 7 班							
39	38	37	36	35	34	33	32
菅駱	第四鳳輦	紫駱	比礼鉾	御桶	神名旗	朱傘	神職



第 6 班						
31	30	29	28	27	26	25
勤王隊・銃士隊	勤王隊長・司令	大隊旗・小隊旗	日月象幡	錦旗	勤王隊楽士隊	勤王隊名旗



第 5 班			
24	23	22	21
四神旗	大真神	大錦旗	弓矢



第 13 班						
81	80	79	78	77	76	75
清掃車	輸送車	救護車	賽物車	賽物係(青衣講)	伝令(青衣講)	警備係



第12班		
74	73	72
一日講社	供奉委員	各祭典区旗



第 11 班							
71	70	69	68	67	66	65	64
伝令長・工匠鑑車	責任役員車	責任役員車	宮司車	四神旗	菅蓋	錦蓋	伶人



第 10 班							
63	62	61	60	59	58	57	56
菅駱	第一鳳輦	紫駱	比礼鉾	御桶	神名旗	朱傘	神職



第 9 班							
55	54	53	52	51	50	49	48
菅駱	第二鳳輦	紫駱	比礼鉾	御桶	神名旗	朱傘	神職



連合山車の数々

札幌まつりの山車は、明治十一年の初めての渡御に薄野の芸妓、常磐津連中などが車二台でくりだしたというのが始まりと言われています。その後札幌の街の発展と共に、明治二十九年には四基、三十五年には五基、大正四年に十基、大正七年にはついに十二基と全ての祭典区が山車を持っていました。山車の数や祭礼風景は時代とともに移ろいつつも、現在では九基の山車が渡御に華を添えています。



第一本府祭典区

やまとたけるのみこと
日本武尊



第三山鼻祭典区

しま よしたけ
島 義勇



第四豊水祭典区

すさのおのみこと
須佐之男命



第六西創成祭典区

すさのおのみこと
素盞鳴尊



第七東祭典区

じんむてんのう
神武天皇



第八豊平祭典区

かとうきよまさ
加藤清正



第九東北祭典区

さるたひのみこと
猿田彦命



第十六桑園祭典区

ももたろう
桃太郎



第二十琴似祭典区

なわながとし
名和長年

開拓の

先人の顕彰

開拓神社の創建 八十年を迎えて



開拓神社は、開拓七十年を記念し、昭和十三年（一九三八）に創建されたものであるが、創建の背景には、まさしく当時の北海道の主たる目的である「開拓」を完遂すべく、厳しい地勢においても果敢に北海道を発展させようと労苦をいとわず家職に励んだ人々を顕彰し、且つ永く当地の模範とすべく、人々から自然と湧上がり現在まで育み続けられている「開拓者顕彰」という営為がある。

開拓功労者の顕彰

北海道開拓の先人を顕彰することが初めて話題となったのは、大正七年（一九一八）に開催された開道五十年の記念式典で、北海道開拓に功労のあった一三〇人を表彰したことを機としてであった。

翌大正八年（一九一九）三月に開催された第二回東北六県・道神職聯合大会では、当時の北海道庁長官依孫一は、本道の拓殖の意義を強調し、神社を奉祀し、神社を中心として本道の開拓を図ることが開拓使以来の責務であると述べ、その期待を力説した。また、列席の内務省塚本神社局長も、特に社会的活動に奮発を期待し、敬神崇祖の宣揚を演説した。本道開拓の成果を目のあたりにしたすべての人々が、開拓者顕彰を決意したのは自然であったろう。この開拓功労者の顕彰が実現したのが、開道七十年目に当たる昭和十三年（一九三八）のことであった。

奉斎殿の建設と

開拓神社の創立

昭和十三年は、北海道開拓七十年に当たる。時の北海道庁長官石黒秀彦は、その記念事業として物故開拓功労者を奉斎するため、札幌神社境内地の使用許可を得て開拓奉斎殿を建設することとした。同年八月十五日に開道七十周年記念式典に先立って、開拓奉斎殿で開拓功労慰霊祭が執行された。続いて全道から奉斎神の申請を求め、三十六柱が道庁で選考され、十二月三日には開拓奉斎殿の社殿をもって開拓神社とし鎮座祭が盛大に行われた。この由緒等について当時の「開拓神社明細書」は次のように記している。

一、由緒

明治維新ノ皇謨ニ基キ北門警衛ノ方策樹立セラルルヤ、皇化甫メテ遐陬ノ地ニ洽霑シ、文運日ニ新ニ進ミ開創七十年ニシテ、北海道ハ住民三百万



ヲ越エ国防上産業益々其ノ重要性ヲ加ヘ來レルニ鑑ミ、夙ニ憤ヲ外侮ニ發シ思フ国家百年ノ大計ニ馳セテ、拓地植民ノ聖業ニ心血ヲ傾注セル先人ノ英靈ヲ祀リ、以テ報本反始ノ至誠ヲ效シ、拓殖ノ前路ニ冥々ノ加護ヲ仰ガントスルノ与論抬頭セルヲ以テ、昭和十三年十一月十八日北海道開拓ノ先覺ニシテ功勞最モ顯著ナル三十六柱ヲ祭神トスル開拓神社ヲ札幌神社境内ニ創立シ、之ヲ末社ニ指定方内務大臣ニ稟申ノ結果同月二十八日右境内神社トシテ創立ノ儀聽許セラル、而シテ祭神ノ決定ハ北海道庁ニ於テ慎重ナル調査研究ヲ遂ゲ、更ニ内務省神社局ノ考証詮議ヲ經タルモノナリ。斯クテ、同年八月十五日開道七十年記念式ヲ挙グルニ方リ、普ク開拓功勞者ノ英靈ヲ招請シテ、祀典ノ礼ヲ捧グルタメ、北海道地方費ヲ以テ境内ニ新宮セラレタル開拓奉斎殿ノ寄進ヲ採納シテ、開拓神社々殿ニ充當シ、同年十二月一日、神殿以下ノ清祓、御飾ノ儀ヲ奉仕、越エテ十二月三日鎮座祭ヲ執行セリ。

一、例祭 八月十五日

明治二年八月十五日蝦夷地ヲ改メテ北海道ト称シ十一国八十六群ヲ制定セル緣由ニヨル。

二、神殿 四坪八合七勺五寸

造宮ノ沿革 昭和十三年七月創建

三、玉垣 参拾四間

造宮ノ沿革 昭和十三年七月創建

四、鳥居 弘柱真々拾尺八寸

高拾四尺壹寸五分

造宮ノ沿革 昭和十三年八月創建(開拓神社創立關係書類)

鎮座祭の斎行まで

この開拓神社の鎮座祭に至るまでの経緯について、当社の昭和十三年の『日誌』からたどってみたい。

三月三日、道庁部長会議で「札幌神社社殿改修並境内整理事業及開道七十年記念事業トシテ境内ニ開拓功勞者ノ奉斎殿建設ノ件」が審議される予

定であったが延期されている。

だが翌四日の『日誌』には、「(一)社殿改修並境内整理事業ハ紀元二千六百年記念事業トシテ総経費百万円トシ境域整善ヲ先トシ社殿ハ明治天皇合祀問題ト並行セシムルコト、之ガ具体案ハ宮司・総務部長・学務部長ニテ研究ノコト

(二)奉斎殿ハ裏参道東側台地ヲ予定地トシテ融雪ヲ俟チテ計画ヲ進メ福岡技師ガ設計ニ当ルコト」と記されている。

また、同月十三日には道庁営繕技師石山末吉が建設予定地の実測のため来社している。

奉斎殿敷地の縄張は五月九日に福岡技師と四人の建築係員によって行われたが、十日付けの『日誌』では、「当初四十八坪ナリシガ長官ノ意嚮ニヨリ幅八間奥行十間ト改メラル」と記している。

奉斎殿の地鎮祭は五月十九日午後三時から執行された。参列者には道庁吏員約一〇名のほか工事請負者鈴木与兵

衛ら一〇名があった。

七月三十日には、工業学校生徒約一五〇名が奉斎殿の前庭地の作業奉仕を行い、翌日も続けられている。

ここで八月十五日の開拓功労者慰霊祭執行をはさむ前後の『日誌』を再録してみたい。

八月十三日留岡総務部長以下約五十名参列ス。

午前八時ヨリ新殿祭、招神祭執行、午前九時四十五分ニ至リ無事終了ス。

八月十五日 午前八時開道七十年奉告祭執行 宮司以下奉仕 石黒長官各部課長各課判任官代表等約六十名

参列、因ニ本祭儀ハ道庁主祭ニ係ルモノトス。

午前九時境内開拓奉斎殿ニ於テ開拓功労者慰霊祭執行、玉串奉奠者、道庁長官、今北大総長、伊達男爵(遺族代表)中

村貴族院議員(元長官)金子貴族院議員、木下衆議、村上道議、河原小樽市長



創建当時の開拓神社(西条正鳳画)

(道内市長代表)吉田静内町長(町村長代表)佐藤男爵(参列者代表)此日道庁員ヲ始メ道内ノ参列者凡千六百名奉斎殿前庭ニ満チ溢ルルノ盛況、厳肅莊重裡ニ終了ス。

八月十九日 午前九時開拓奉斎殿送神祭執行 宮司以下奉仕 参列者 道庁



開拓神社鎮座祭風景

長官代理留岡総務部長以下約四十名。
このように八月十九日開拓奉斎殿送神祭を終えて、十一月二十六日の夜には上京中の中村道序社寺主任から「開拓神社創立ノ儀許可セラレタリ」との電報があった。また、ただし書きには

「正式指令ハ二十八日付ナリ 右ハ本月十八日稟申ニ係リ祭神ハ本道開拓功勞者三十六柱ナリ」とあった。

このようにして十二月一日には「開拓神社清祓並御飾ノ儀」が執行され、翌々日には「開拓神社鎮座祭」が行われたのである。当日の『日誌』を紹介しよう。

十二月三日 開拓神社鎮座祭執行 午前十時 早旦祭場舗設 時刻参列員着席 次官司以下着席 次修祓 次祢宜神殿ノ御扉ヲ開ク 次官司御靈遷ノ祝詞ヲ奏ス 次祢宜以下神饌ヲ供ス(此間奏樂)次官司祝詞ヲ奏ス 次官司玉串ヲ奉リテ拝礼(斎員列拜)次道序長官玉串ヲ奉リテ拝礼 遺族総代松前靖広・文官総代・貴族院議員総代・衆議院議員総代・道会議長一般総代(三沢札幌市長) 次祢宜以下神饌ヲ徹ス 次官司御扉ヲ閉ツ 次各退出(午前十時五十五分終了)参列者 石黒長官以下各

部課長 神保林勅任技師 祭神遺族(伊達康夫・伊達正人・田村雄一郎・吾妻阿蘇男・高田義松・村山貞作夫妻・松前靖広・下国隆)官公衙首長、道(三四名) 学校長、愛国婦人会代表 敬神講者代表等総数二百二十名ニ及ブ 祭場ハ幄舎ヲ設ケス、玉垣内右側ニ仮神饌所、祓所玉垣外広場左側官司以下、右側長官以下玉串奉奠舎並祭神遺族、正面一般参加者席ヲ設ク 周囲ハ幕ヲ張り所々ニ炭火ヲ埋ム 而シテ参列者案内ハ道序社寺兵事課員之ニ当ル。

なお、開拓神社が内務省より札幌神社の末社に指定されたのは昭和十五年(一九四〇)九月六日のことである。

昭和二年九月二十一日に帯広市長佐藤亀太郎外の請願により、十勝の農聖と呼ばれた依田勉三を合祀し、以来三十七柱の御祭神を奉斎し、今日に到っている。

(北海道神宮史上巻「北海道神宮研究論叢」参照)

開拓神社の御祭神

北海道の開拓に心血を注ぎ、

偉大な業績を果たした功労者

三十七柱をお祀りしています。

※御祭神の出身地を現在の都道府県で記載しております。

武田 信広（たけだのぶひろ）
北海道開発の基礎を築き松前氏の始祖となりました。
【福井県】

松前 慶広（まつまえよしひろ）
松前藩を興し初代藩主として基礎を築きました。
【北海道】

佐藤 信景（さとうのぶかげ）
蝦夷地の開発にあたり水稲の成果を収めました。
【秋田県】

村山 伝兵衛（むらやま でんべえ）
樺太場所の開拓、北洋の漁場開拓の功労者。
【北海道】

松田 伝十郎（まつだ でんじゅうろう）
択捉島の探検調査、樺太探検に尽力しました。
【新潟県】

本多 利明（ほんだとしあき）
蝦夷地開拓と海運振興の建白、唱導をしました。
【新潟県】

伊能 忠敬（いのうただたか）
東蝦夷地海岸線を踏査、測量して地図製作をしました。
【千葉県】

高田屋 嘉兵衛（たかだや かへえ）
択捉航路の開通、漁場の開拓と海運に貢献。
【兵庫県】

栖原 角兵衛（すはらかくべえ）
天塩地方の開拓、航路の拡張、漁場開拓に尽力。
【和歌山県】

最上 徳内（もがみとくない）
蝦夷草紙を書き馬鈴薯を伝えた功労者。
【山形県】

近藤 重蔵（こんどうじゅうぞう）
千島列島の開発に尽力、石狩平野に開拓の府設置を建言。
【東京都】

間宮 林蔵（まみやりんぞう）
間宮海峡を発見、伊能忠敬の志を継いで地図を完成。
【茨城県】

中川 五郎治（なかがわごろうじ）
箱館地方の天然痘で全国初の種痘法を始めました。
【青森県】

鈴鹿 甚右衛門（すずかじんえもん）
私費で江差、箱館間の鴉山道等を開削しました。
【北海道】

井上 長秋（いのうえよしたけ）
箱館裁判所判事になり蝦夷地開拓に功勞しました。
【鹿児島県】

松前 徳広（まつまえのりひろ）
幕軍の脱走兵に孤軍奮闘で戦った最後の松前城主。
【北海道】

田崎 東（たざきあずま）
勤王論を唱導して藩論をまとめた松前藩勤王の士。
【東京都】

鍋島 直正（なべし直まさ）
佐賀藩主、蝦夷開拓督務、開拓使初代長官として開拓に尽力。
【東京都】

島 義勇（しまよしだけ）
開拓三神を奉じ鎮座地を定めた札幌の都市計画の祖。
【佐賀県】

松川 弁之助（まつかわべんのすけ）
箱館の開拓事業、樺太漁場開拓、移民誘導に尽力。
【新潟県】

続 豊治（つづきとよじ）
和洋折衷の船形を創案、西洋式船舶製造の先駆者。
【北海道】

下国 安芸（しもくにあき）
松前藩家老。維新後も旧領の安定に尽くしました。
【北海道】

清水谷 公考（しみずたにきんなる）
箱館府知事、開拓使次官など蝦夷地開拓の功労者。
【京都府】

早川 弥五左衛門（はやかわやござえもん）
蝦夷地探検、樺太渡航、漁場開拓に貢献。
【福井県】

松浦 武四郎（まつうらたけしろう）
北海道の名付け親、箱館府判事、開拓判官を歴任。
【三重県】

吾妻 謙（あがつまけん）
石狩郡当別村の開祖。畜産経営にも着手しました。
【宮城県】

佐野 孫右衛門（さのまごうえもん）
釧路開発の功労者。鉱物探掘事業にも尽力。
【北海道】

伊達 邦直（だてくにわお）
岩出山藩主、石狩郡当別村に土族移住を成功させました。
【宮城県】

黒田 清隆（くろだきよたか）
北海道開拓の産業や制度を創始。首相をつとめました。
【鹿児島県】

小林 重吉（こばやしじゅうきち）
三石昆布の輸出、開墾植林、航海学校設立などに尽力。
【北海道】

永山 武四郎（ながやまたけしろう）
屯田兵本部長、北海道庁長官、屯田兵育ての親。
【鹿児島県】

岡本 監輔（おかもとけんすけ）
樺太経営の重要性を建白。千島防備の千島義会を組織。
【徳島県】

伊達 邦成（だてくにしげ）
伊達巨理藩主。伊達市の基礎を築いた開拓功労者。
【宮城県】

東久世 通禧（ひがしきよみちとみ）
二代目開拓長官。開拓三神を奉戴して上陸。開拓の祖。
【京都府】

田村 顕允（たむらあきまさ）
伊達巨理藩家老。土族移住を成功させた伊達開拓功労者。
【宮城県】

岩村 通俊（いわむらみちとし）
北海道初代長官。北海道殖産の基礎を築きました。
【高知県】

依田 勉三（よだべんぞう）
晩成社を設立。十勝帯広に移住、開拓。十勝の農聖。
【静岡県】

開拓神社と子供達

開拓神社の八月十五日の例祭には、多くの奉祝行事が行われます。子供たちが中心となっているのが特色で、子供まつりといってもよいでしょう。

開拓神社の例祭にあわせ、開拓神社杯として軟式少年野球大会が開催され、大会に参加した少年野球チームやボーイスカウトの子供たちにより子供神輿の渡御が行われます。八月十四日～十六日の日程で開催される盆踊り大会では子供たちによる仮装盆踊りが行われるなど、子供たちを主体とした



御神輿を担ぐ子供達



子供仮装盆踊り



少年野球大会開会奉告祭



大神輿と溢れる人々

行事が多く行われます。開拓神社の行事を通して、北海道開拓の歴史に触れ、その郷土愛を育み、次代を担う子供たちに先人達への感謝の心を培うという、大切な開拓神社の活動となっています。

開拓神社と大神輿

開拓神社には大神輿があります。その大きさは総重量四・五トン、高さは四メートルにもなり、実際に担がれる神輿としては日本最大級とも言われています。これは平成四年に

堂垣内尚弘氏を会長とする開拓神社奉納委員会による奉納で、千葉県行徳の中台神輿製作所により約二年がかりで調製されたものです。
二年に一度渡御が行われていますが、担ぐためには二百名以上が必要といわれており、開拓神社の大神輿を守っている「道神会」を中心に、全道から多くの担ぎ手が集い担がれています。

渡御当日には担ぎ手と見に来た人びとで札幌駅前通りが埋め尽くされるほどで、その威勢の良い渡御の声は開拓神社の名を全道へと響かせています。

社頭風景

三月
五月

入学祭

三月二十五日(日)春の日差ししなか、第三十五回入学祭が午前十二時と午後二時に斎行されました。札幌市内全区より二百五十五名ものお申し込みがあり、拝殿は色とりどりのランドセルを背負う新入学児童とそれを見守る保護者の皆様で埋め尽くされました。

祝詞の後、巫女による神楽「豊栄の舞」の奉奏、国家「君が代」の斉唱の後、児童二人ひとりが玉串を捧げ健康や学業成就などの願い事を込めながら拝礼し、最後に御社殿の前で記念の集合写真を撮影しました。



お祓いを受ける子供達

昭和祭



参進の様子

昭和天皇の大業を景仰する昭和祭が、四月二十九日(日・祝)午前十時より厳粛に斎行されました。昭和天皇は摂政の宮であらせられました大正十一年、即位されてからは昭和十二年、昭和三十六年、昭和四十四年の四度に渡り北海道神宮をご参拝になられました。

北海道神宮の御祭神でもあります明治天皇をお祀りするにあたり、昭和天皇から御裁可を頂いて御増祀が叶いました。当日は参列者一同、改めて昭和天皇の御代を顕彰し、皇室の弥栄と国家の発展を祈念しました。

第三十二回開拓神社杯少年野球大会開会式

四月二十一日(土)午後五時半に、第三十二回北海道神宮末社開拓神社杯少年野球大会の祈願祭並びに開会式が北海道神宮拝殿にて行われました。大会の安全を祈願した祝詞の後、各チームのキャプテンと監督が玉串の拝礼を行いました。

引き続き開会式が行われ、上原恭司実行委員長の挨拶の後、昨年優勝した新琴似パワーズ、準優勝の円山リトルジャイアンツの各チームより旗とカップが返還されました。引き続き上原実行委員長より大会運営についての説明があり、手稲区の手稲ヤングスターズのキャプテン古川君から元気のよい選手宣誓がありました。この日より総勢二十二チームによりトーナメント試合が行われ、決勝戦は七月に十六日(木)に、札幌つどーむに於いて行われ、開拓神社例祭に合わせ八月十五日(水)に表彰式が行われます。



選手宣誓の様子

神饌田御田植祭

五月九日(水) 春らしくとても温かい日差しのもと、北海道の屋根ともいわれる大雪山系は旭岳の麓に広がる東川町の北海道神宮神饌田にて、第四十回神饌田御田植祭が斎行されました。早朝から農業協同組合中央会・東川町農業協同組合青年部の方々により会場が設営され、午後二時より祭典が始まりました。田長の役をJA北海道中央会参事の石田健一氏、田長介助役をJA北海道中央会営農指導支援センター長平田靖氏、耕作長をJA東川町組合長の樽井功氏がそれぞれ務め、祭儀が厳粛に執り行われました。札幌からは奉仕団約二八名が参列し、豊作祈願をして早乙女の田植えに合わせて田植え歌を歌いました。今年は東川町の有志により結成された神饌田歌合唱団の皆さんも初めて参加して頂き、田植え歌は高らかに響き渡りました。祭典終了後に一行は層



田植えする早乙女達

雲峡朝陽亭に宿泊し、翌日には鷹栖神社を正式参拝の後、上野ファーム、男山酒造などを見学して帰路に着きました。

五月人形展示

四月十七日

(火)より五月二

十日(日)まで祈

祷者控殿におい

て、人形作家の

山田裕嗣氏所

蔵の明治から昭

和までの貴重な

五月人形を展示しました。



五月人形展示の様子

端午の節句は、古来より宮中で行われていた厄除けの行事が武家、庶民へと広がったものといわれています。もともと魔除けとして厚紙などで作った武者人形や兜などがやがて五月人形になったともいわれており、人形文化・技術の発展に伴い種類も増えていきました。今回の展示でも神武天皇や、応神天皇、金太郎、桃太郎などを模したものなど種類は多く、男児の健やかなる成長を祈った昔の人々の思いや文化を感じることができます。

神武天皇祭遙拝

4月3日(火)午前9時、神門下祓所に於いて、神武天皇祭遙拝を斎行しました。



祭事の様子

植樹祭並びに剪定奉仕

5月4日(金)午前10時より本殿での植樹祭に引き続き、社団法人札幌造園協会による剪定奉仕、ボーイスカウトによる植樹作業が行われました。



植樹するボーイスカウトの子供達

鯉のぼり泳ぐ

4月28日(土)より5月13日(日)まで、元気よく鯉のぼりが泳ぎ、内外よりの参拝者にご覧いただきました。



日の丸と共に泳ぐ鯉のぼり

奉賛会だより

奉賛会大祭

五月十三日(日)岩田会長をはじめ約二五〇名の会員が参列して奉賛会大祭が斎行されました。

祭典終了後は参集殿で総会が開催され平成二十九年度事業報告並びに収支決算、平成三十年年度事業計画案並びに収支予算案が満場一致で採択されました。



大祭の様子

新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。平成三十年三月一日から平成三十年五月十五日までのご入会の方、またご協賛頂きました方のご芳名(敬称略)をご報告致します。

お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

新入会員のご紹介

豊吉孝
原田アイ子
田本哲平
宮村謙郎
野藤誓亮
中田州俊
山吹由晴
田藏由希子
高橋大平
井上武彦
宇津野真理
小貫敏彦
(有)ステップス

協賛者のご紹介

◇五万円

伊藤組土建(株) 代表取締役社長 玉木 勝美

◇二万円

みずほ証券(株)札幌支店

岩田地崎建設株式会社

(株)オーランド札幌代表取締役 山崎隆士

谷口和男

◇一万円

北海道神社庁札幌支部 支部長 山口 貴生

(有)桜井

多田 磨理子

(株)すずらん商事 代表取締役 厚川 博彦

(株)佐藤商会 代表取締役 小野 葉子

北陽ビルサービス(株)

代表取締役 其田 雅人

(株)第一ホテル

(株)大室洗染所

有限会社 ココウエスト

取締役社長 大西 仁詩

(株)HPI 代表取締役会長 井上 俊彌

(株)太陽グループ 代表取締役 東原 俊郎

(株)グランビスタホテル&リゾート

札幌パークホテル

北陽警備保障(株) 代表取締役 森本 英雄

大長 記興

池崎 秀夫

◇五千円

大島 佳子

富松 政美

株式会社 シティプラザプランニング

代表取締役 生方 淳

◇三千円ほか

小黒 良子

香川 睦美

北本 修平

齋藤 恭令

千葉 亮一

長谷川 晋

城宝 正

宮田 香

宮田 恵一

平成二十九年年度事業報告

〈事業実施状況〉

- 一、会 議
- 理事会(書面)平成二十九年四月
- 総 会 平成二十九年五月十三日
- 常任幹事会
- 平成三十年三月三十日
- 一、北海道神宮奉賛会大祭の実施
- 五月十三日の総会に先立ち、約三〇〇名の参列者のもと斎行されました。
- 三、会員の動態
- 平成三十年三月三十日現在
- ・在籍会員数、二五二名
- ・新入会員数六十八名
- ・(前年度五十七名)
- ・準会員数五四三名
- (本社挙式の方々に二年間に限り準会員として処遇)
- 四、屋根銅板奉納事業
- (平成三十年三月三十日現在)
- ・屋根銅板 四七九枚
- 五、施設整備事業
- ・北海道神宮御鎮斎一五〇年に向けて資金の積立をしました。

六、教化事業

- ・札幌まつり振興会に協賛しました。
- ・札幌まつりに渡御奉仕員を募集し、二〇〇名程の参加者の奉仕に協力しました。
- ・ポークスカウト・ガールスカウト育成に協賛しました。
- ・北海道神宮養心館(少年剣道)育成に協賛しました。
- ・第三〇回「境内清掃奉仕」は十月二十九日(日)に行われ、四十二名の参加を頂きました。

七、会員関係事業

- ・入会時に会員証と会員バッジ及び門標を送呈しました。
- ・会員に家内安全の祈禱による昇殿参拝を勧奨しました。(年間約四〇〇件)
- ・新年の祈禱神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送付しました。
- ・年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付しました。
- ・正月七日間、神酒拝戴をしました。
- ・本社にて挙式をされたおふたりに、一年間準会員として会員証の発行と「北の志づめ」を送付しました。

八、役員異動一覧

【退任】

- 会長 (平成二十九年五月) 北海道商工会議所連合会名誉会頭 高向 巖
 - 理事 (平成二十九年十月) ホクレン農業協同組合連合会代表理事会長 佐藤 俊彰
 - 常任幹事 (平成三十年三月) 北海道商工会議所連合会専務理事 菊嶋 明廣
 - 常任幹事 (平成三十年三月) 北海道経済連合会専務理事 森 昌弘
 - 常任幹事 (平成三十年四月) 北海道農業協同組合中央会常務理事 村上 光男
 - 常任幹事 (平成三十年四月) 北海道林業協会事務局長 相樂 博志
- 【就任】
- 顧問 (平成二十九年五月) 北海道商工会議所連合会名誉会頭 高向 巖
 - 会長 (平成二十九年五月) 北海道商工会議所連合会会頭 岩田 圭剛
 - 副会長 (平成三十年四月) 北海道経済同友会代表幹事 石井 純二
 - 理事 (平成二十九年十月) ホクレン農業協同組合連合会代表理事会長 内田 和幸
 - 常任幹事 (平成三十年三月) 北海道商工会議所連合会専務理事 廣田 恭一
 - 常任幹事 (平成三十年三月) 北海道経済連合会専務理事 瀬尾 英生
 - 常任幹事 (平成三十年四月) 北海道林業協会事務局長 八巻 良博
- (予定者を含む)

平成三十年度事業計画

- 1、会議の開催
総会・理事会・常任幹事会を開催します。
- 2、北海道神宮奉賛会大祭の実施
北海道神宮奉賛会大祭を斎行します。
- 3、会員の増強
本年も引き続き、会員及び関係機関の協力を得まして、会員増強を図りたいと思います。
- 4、屋根銅板奉納事業
本年も引き続き、屋根銅板奉納の事業を推進します。
- 5、施設整備事業
北海道神宮御鎮齋二五〇年式年大祭事業へ向けての事業の策定と資金の積立。
- 6、教化事業
・天皇陛下御即位三十年の奉祝活動を北海道神宮に協力して実施します。

- ・北海道神宮並びに関係団体とともに青少年育成の教化事業の推進を図ります。
- ・北海道神宮境内の清掃奉仕を実施します。
- ・札幌まつり渡御奉仕員の募集を実施します。
- ・北海道開拓の歴史の闡明と先人諸霊の敬仰・顕彰の事業を実施します。

7、会員関係事業

- ・入会時に、会員証を発行し、会員バッジ・門標を送呈します。
- ・新年の祈禱神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送呈します。
- ・年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付します。
- ・会員優遇の「家内安全」の祈禱の昇殿参拝を勧奨します。
- ・正月七日間、神酒拝戴を実施します。
- ・本社にて挙式をされた方に、一年間準会員として会員証の発行と「北の志づめ」を送付します。

開拓判官 島義勇 顕彰の集い

開拓判官島義勇顕彰祭

開拓判官島義勇顕彰会の主催により、四月十四日(土)午前十時より北海道神宮の参集殿に於いて、二百十三名の参列のもとに顕彰祭が斎行されました。北海道での開拓判官としての功績、秋田での初代権令(知事)としての功績を讃える祝詞の後、巫女の神楽、吟詠講議長有馬郁文氏による島判官作の漢



顕彰祭の様子



開拓判官島義勇特別展

詩並びに秋田県権令拝命時の和歌の吟詠がありました。

来賓として佐賀県知事他佐賀関係者、谷温子様をはじめとする島判官(子孫の方々、札幌秋田県人会、国家行政機関より財務省北海道財務局長高秀樹様、農林水産省北海道農政事務所長大坪正人様のご参会を頂き、また島判官の出身地である佐賀、初代権令(知事)として活躍した秋田県、そして島判官の拓いた、この札幌・北海道の有志の皆様

より地元のお米・銘酒・名産品等が多数奉納され、神前にお供え致しました。

いよいよ二百万都市にもなるうかと言われる札幌の発展は、島判官の壮大にして先見性のある都市計画のお蔭であり、秋田での初代権令としては県政の礎を築くなど、島判官の数々の偉業に参列者一同改めて敬意と感謝を捧げました。

尚、当日は「開拓判官島義勇特別展」を北海道神宮社務所「楓の間」に於いて開催しました。島判官の佩刀や石狩大府指図などを展示し、大勢の方々にご覧頂きました。

顕彰の集い

顕彰祭に引き続き京王プラザホテルに札幌に会場を移し、午前十二時半より開拓判官島義勇顕彰の集いが二百五十三名の参加者のもと開催されました。まず北海道大学教授谷本晃久先生より「蝦夷地・北海道の「開拓」をめぐる幕末から明治初頭を中心に」と題してのご講演の中で、島判官の開拓の時代背景、また開拓使以前の蝦夷地の開拓、幕府・松前藩・アイヌ・ロシアの複雑に絡み合う関係などに触れ、過去を知ることで北海道の

これからの活かせることがあるのではないかとのお話を頂きました。参加者の大きな拍手を持って公演は終了しました。

引き続き同ホテル内にて懇親会が開催され、主催者を代表して吉田源彦代表世話人が挨拶をし、佐賀県知事山口祥義様、北海道知事高橋はるみ様、札幌市長秋元克広様よりお祝いの言葉を頂き、内閣官房副長官西村康稔様、内閣参事与飯島勲様、島義勇が初代秋田県令を務められた関係から秋田県を代表して秋田県知事佐竹敬久様、島判官と同時期に開拓判官を務め、北海道の名付け親で開拓神社御祭神であります松浦武四郎の出身地の三重県松坂市より市長竹上正人様他、佐賀県・秋田県・三重県・北海道選出の国会議員他有志皆様より頂いた祝電を披露しました。佐賀県県議会議長石倉秀郷様の発声により会は始まり、終始和やかなムードで会は進み、午後二時に中締め発声を合田一道顕彰会世話人より頂き閉会しました。

北海道の今日の豊かさは、多くの先人たちによりもたらされました。この集いを通してひとりでも多くの人に開拓の先人に対する感謝の気持ちを醸成し、郷土を愛する心を育む機会となり、先人の「志」を次世代へ継承する機会になればと思っております。先人に対する思いが北海道開拓功労者と関わりの深い全国の地域と北海道を結び、更なる「絆」を深めることを期待するところです。



講演会の様子



ご来賓と子孫の方々

平成三十年 島判官顕彰祭奉納者一覽 (敬称略・順不同)

- 佐賀県知事 山口祥義
色紙「絆」
- 佐賀県知事 山口祥義
特選「東長」1本
- 佐賀市 市長 秀島敏行
清酒吟醸「肥前杜氏」2本・佐賀海苔 3箱
- 佐賀県議会 議長 石倉秀郷
純米吟醸「肥前蔵心」1本・純米吟醸「鍋島」1本
- 佐賀市議会 議長 武藤恭博
清酒吟醸「肥前杜氏」2本
- 佐賀県白石町 町長 田島健一
金紋「東長」1本・連根1箱
- 衆議院議員 衆議院議員 今村雅弘
特別栽培米「夢しずく」30kg
- J A全農 顧問 中野吉實
特選「東長」1本
- 佐賀商工会議所 会頭 井田出海
特別純米酒「窓乃梅」2本・佐賀のり「紫香燦々」
- 佐賀県農業協同組合 中央会 会長 金原壽秀
清見オレンジ1箱・さがびより30kg
- 佐賀県農業協同組合 代表理事 組合長 大島信之
佐賀牛ロースステーキ200g木箱入3箱・嬉野茶ギフト
- 公益社団法人 国民健康保険中央会 理事長 原勝則
純米酒「東長」1本
- 佐賀県建設業協会 代表理事 会長 松尾哲吾
金紋「東長」1本
- 佐賀市議会 議員 黒田利人
酒王「窓乃梅」2本
- 佐賀市議会 議員 福井章司
清酒吟醸「肥前杜氏」2本
- 国際文化協会 理事 金ヶ江悦子
純米大吟醸「権右衛門」1本
- 医療法人 聖医会 藤川病院 理事長 藤川謙一
特別純米酒「窓乃梅」1本
- 佐賀農政協議会 会長 代行 伊東正美
純米酒「東長」1本
- 佐賀県有明海漁業協同組合 代表理事 組合長 徳永重昭
佐賀海苔 100袋
- 佐賀県有明海漁業協同組合 森田政則
奉納品取り纏め
- (株) 中野建設 代表取締役 社長 中野武志
純米吟醸「岩の蔵」3本
- 佐賀県神社庁 庁長 東正弘
鶴屋「丸房露」(焼菓子) 1箱
- 佐賀県護国神社 宮司 徳久俊彦
鶴屋「おりづる」(和菓子) 1箱
- 太良嶽神社 宮司 石井和明
小城羊羹詰め合わせ 2箱
- 佐賀県立佐賀北高等学校
色紙「拓魂」
- 佐賀県立佐賀北高等学校 3年 諸泉希
色紙「絆」
- (有) 小笠原商店 代表取締役 藤田栄一
もち米 あめ 40本
- 佐賀県酒造組合 会長 古賀醸治
奉納品取り纏め
- 矢野酒造(株) 矢野善紀
純米大吟醸「権右衛門」1本・純米吟醸「権右衛門」1本
- 松浦酒造(株) 社長 田尻泰浩
清酒 松浦誠 2本
- 宗政酒造(株) 代表取締役 社長 山崎耕造
清酒 宗政上撰 2本
- 富久千代酒造(有) 取締役 飯盛直喜
「肥州鍋島」2本
- (株) 松尾酒造場 神谷吾三
純米大吟醸「宮の松」2本
- 天山酒造(株) 代表取締役 七田謙介
超辛口「天山」2本
- 五町田酒造(株) 代表取締役 瀬頭平
上撰「東」2本
- 鳴滝酒造(株) 代表取締役 古館正典
上撰「聚楽太閤」2本
- 幸姫酒造(株) 峰松幸弘
清酒「幸姫」2本
- 大和酒造(株) 福岡桂
吟醸「肥前杜氏」2本
- 秋田県農業協同組合 中央会 会長 船木耕太郎
二十九年産 秋田県産「天恵米あきたこまち」20kg
- (株) 秋田県物産振興会 代表取締役 麥澤博英
稲庭うどん 1箱
- 秋田酒造組合 理事長 小玉真一郎
本醸造「雪の茅舎」5本
- 衆議院議員 吉川貴盛
純米大吟醸「権右衛門」1本
- 北海道経済連合会 会長 高橋賢友
大吟醸「北の稲穂」1本
- ホクレン
「ゆめぴりか」25kg
- 北海道漁業協同組合連合会
利尻昆布原藻2枚・帆立貝柱200g化粧箱
- (株) 北葉楼 代表取締役 社長 堀安規良
「北海道開拓おかし」詰め合わせ 50個
- 合同会社 豆屋とかち 岡女堂本家 代表社員 工場長 鈴木真智雄
「北の判官豆」100袋
- (株) 丸亀 代表取締役 若月英晶
金紋「飛良泉」1本・上撰「竹の園」1本
- グランド居酒屋富士 代表取締役 大島正一
上撰「天山」3本
- 郷土料理おが 代表取締役 小松正博
純米吟醸「まんさくの花」1本
- 秋田銀行 札幌支店 支店長 進藤豊
秋田清酒「飛良泉」2本
- サッポロビール(株) 北海道本社 代表 生方誠司
開拓使麦酒 330ml 12本
- 札幌酒精工業株式会社 代表取締役 社長 中村純一
芋焼酎「喜多里」1本・麦焼酎「喜多里」1本
- 国稀酒造(株) 代表取締役 林眞二
上撰「国稀」1本
- 岩田地崎建設(株) 代表取締役 社長 岩田圭剛
特別純米酒「札幌村」1升瓶3本・特別純米酒「札幌村」4合瓶10本
- (株) ガイドードリンコ
お茶缶 30本入り 15ケース

第八回北海道神宮フォトコンテスト表彰式 〈第八回北海道神宮フォトコンテスト受賞者名簿〉

四月二十八日(土)午後二時より第八回フォトコンテスト表彰式が北海道神宮参集殿で行われました。吉田宮司より挨拶があり、引き続き入賞者に賞状と記念品が授与されました。一般部門の応募は二八六点、学生部門の応募は二九点で、総数二〇五点の作品より写真家の佐藤雅英先生をはじめとする審査員による、厳正なる審査の結果入賞者が決定されました。作品は四月十八日(水)より五月二十日(月)まで西回廊にて展示されました。第九回フォトコンテストの募集も来年三月十日の締切で行っております。応募要項の詳細は北海道神宮ホームページをご覧ください。

一般の部(入賞)

神宮賞



「神前の舞」
佐々木 直子

奨励賞



「雪降る中で」
佐々木 郁太郎

奨励賞



「願い」
宮田 芳明

学生の部(入賞)

神宮賞



「感謝」
小杉 園生

奨励賞



「お参りに行こうか」
梅川 歩希

奨励賞



「友結び」
手嶋 麻結

一般の部(入選)

- 安藤 實夏 「紅 淡く萌ゆ」
- 池田 政人 「田植え歌に合わせて」
- 岩間 廣 「お宮参りだよ!」
- 貝沼 正雄 「恵みに感謝」
- 菊池 恵子 「二十歳のちかい」
- 齋藤 攸子 「国境なき祈り」
- 佐々木郁太郎 「感謝の気持ち」
- 佐々木 恵子 「晴れ着で参拝(香港娘)」
- 佐藤 昌弘 「三者三様の構え」
- 田澤 康史 「笑顔で出発」
- 只石 秀樹 「ちよつと拝見」
- 原田 芳昭 「参道の異邦人」
- 細田 伸一 「エゾリスとオンコの実」
- 斐田 祥健 「今日あつて明日なし」
- 増井 典子 「恋みくじ」
- 増井 道英 「七五三詣」
- 山崎 久子 「水無月の神道。」
- 山崎 久子 「親方似」
- 山崎 久子 「成長に感謝して」
- 吉村 匡代 「三歳の慶び」



西回廊での展示

漫画 鍋島直正

佐賀県 編著
太神美香 漫画

明治維新百五十年を記念して、佐賀県の編著のもと「漫画 鍋島直正」が発刊されました。鍋島直正は号を閑叟と言い、佐賀七賢人の一人である。肥前国佐賀藩の十代目藩主として変動の時代を生きた偉人であり、その先見の明は財政破たん寸前の佐賀藩の近代化を大きく進め、薩摩、長州、土佐などと並ぶ雄藩へと育て上げた。明治維新後は北海道開拓を国の急務と捉え、開拓使初代長官を務め、島義勇をはじめとする優秀な人材を判官として任命し北海道開拓を指示しました。北海道神宮にとっても、開拓神社の御祭神の二柱としてお祀りしており今号の「がんばれ！北海道」の合田二道先生による開拓の群像特集でも取り上げられております。北海道と縁の深い佐賀の偉人ですので、皆様にも是非ご読いただければと存じます。



※全国主要書店 各種オンライン書店にて発売中

お求めは書店にてお願い致します。

表、コラムなど多数収録

◆解説編「日本の産業革命は佐賀から始まった」他、巻頭グラビアや年表、コラムなど多数収録

◆価格 五百円(税別)
◆B6版 二百二十四ページ

島義勇伝

「島義勇伝」製作委員会 編
エアードライブ 著

明治天皇御増祀五十年を記念して「島義勇伝」製作委員会より発刊された「島義勇伝」が札幌市の推薦図書に指定されました。島義勇は開拓使筆頭判官として、札幌を五州第二の都とするとの大計を案じた偉人であり、「北海道開拓の父」「札幌開府の祖」として知られております。当神宮にとっても、明治二年の未だ拓かれざる札幌の厳冬のなか、札幌神社(現在の北海道神宮)の御祭神となる開拓三神の鎮まる宮地を定められた重要な人物の一人であり、開拓神社の御祭神でもあります。札幌市が特定の図書を推薦するのは前例のないことであり、これを機により多くの人々へ島判官の偉業が伝わることを願います。



お求めは書店にてお願い致します。

◆北海道学校図書館協会推薦図書

◆北海道庁タイアップ作品

◆佐賀市教育委員会推薦図書

◆佐賀県庁、佐賀市役所、

◆札幌市役所推薦図書

◆A5版 百六十一ページ

◆価格 九百円(税別)

特集

がんばれ！
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④3

初代の開拓使長官

明治新政府が発足し、開拓使の初代長官に就任したのが肥前藩(佐賀県)の前藩主、鍋島直正です。同藩は幕府時代から長崎警備を担当し、鍋島は外国の動きに敏感な人物で、「長崎の警備と北門の鎖鑰(さやく)は守備相応さざるべからず」が信念でした。



鍋島直正

慶応四年(明治二、二八六八)一月七日、朝廷は王政復古を宣言し、総裁、参与、議定の三職を置き、議定の中に鍋島も含まれていました。

三職及び在京諸侯を集めた上議事局会議が開かれ、席上、鍋島は「蝦夷地の開拓は重要だが、まず裁判所を設けて総督以下を選任し基礎を固めたい。これにより開拓の方法も立つ」と述べました。参与の木戸孝允が賛同し、広く人材を集める方法が定まりました。

江戸城が無血開城されたのに、榎本武揚率いる旧幕府艦隊が蝦夷地に侵攻して五稜郭を占拠し、

松前藩も敗りました。新政府は翌明治二年、征討軍を送って戦闘を展開し、五月十八日、箱館戦争は終わります。

新政府は三日後の二十一日に上局会議、翌日に下局会議を開き、一、皇道の興隆、二、蝦夷地の開拓、の二件を勅問し、これが明治新政府の方針に決まりました。なぜこんなに急いだのでしょうか。実は蝦夷地はアイヌ民族の土地であり、松前藩があり、和人が多数住んでいたとはいえ、どこの国にも属しない存在だったのです。このことは古代の律令制に基づく国家の枠組み「五畿七道」を見れば明らかです。

明治天皇は六月四日、蝦夷地に強い関心を示す鍋島を開拓督務に任じ、蝦夷地開拓を進めるよう勅めました。詔書にはこう書かれています。

蝦夷開拓ハ皇威隆替ノ関スル所 一日モ忽(おろそか)ニス可ラス 汝直正深く国家ニ重ヲ荷ヒ 身ヲ以テ之ニ任セン事ヲ請フ 其憂国済民ノ至情朕嘉納ニ堪ヘス独恐ル 汝高年遂ニ殊方ニ赴ク事ヲ 然レトモ朕之ヲ汝ニ委ス(以下略)

意味を要約すると、蝦夷地の開拓はわが国運に関わるもので、一日もおろそかにできない。汝(なんじ)直正は深く国家の重責を負い、自ら進んで事に当たろうと願ひ出た。その国を憂い、国民を救おうとする真心に喜びたえない。ただ気になるのは、高年なのに異境に赴くことだ。けれども朕(ちん、私)は、このことを汝に任す。

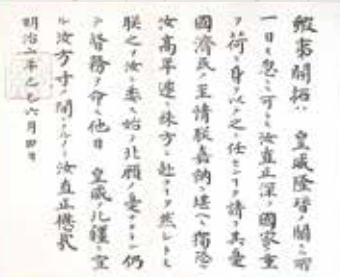
鍋島は、島義勇や松浦武四郎らを蝦夷地開拓御用掛に任命しました。島は幕末に鍋島の命で蝦夷地を探検し、「入北記」を記しており、松浦は「蝦夷道」と言われ、二人は安政四年に箱館で出会い、将来を語り合った仲でした。

七月八日、開拓使が設置され、鍋島は初代の開

拓使長官に任命されました。(初代のみ開拓使長官二代以降は開拓長官と呼びます)間もなく開拓使の次官に清水谷公考が就きました。直正は島、松浦や岩村通俊、岡本監輔ら有能な人材を開拓判官に任じました。

七月十七日、松浦武四郎は蝦夷地に変わる地名として「北加伊道」など六つの地名及び国郡名を選定し提出しました。これにより八月十五日、「北海道」として「国八十八郡が決まったのです。

この間、鍋島は高齢のうえ病気で出仕することもままならず、わずか二カ月半で退任します。後任の長官東久世通禧が島ら判官を伴い、東京・品川を航海したのはその年九月二十二日。こうして北海道開拓は動きだしていきます。鍋島が亡くなったのはその二年後。五十八歳でした。



明治天皇が鍋島に与えた勅書

◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。定山坊行方不明の謎「北海道ノンフィクション」大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』「入間登場」北の歴史を彩る「大君の刀」など。

札幌まつり ご協賛団体紹介

札幌まつり振興会を通じて
昨年の札幌まつりにご協賛
頂きました皆様をご紹介さ
せて頂きます。ご篤志誠に
有り難うございました。

(敬称略)

一般社団法人札幌建設業協会
北海道ガス株式会社
岩田地崎建設株式会社
サッポロビール株式会社北海道本社
北海道百貨店協会
一般社団法人札幌銀行協会
札幌狸小路商店街振興組合
日本ホテル協会北海道支部会
株式会社石川物産館
一番街商店街振興組合
エフ・ウオーター株式会社
株式会社さいとう
札幌通運株式会社
株式会社札幌都市開発公社
一般社団法人札幌ハイヤー協会
札幌四番街商店街振興組合
株式会社福本商店
株式会社ほくせん
北海道神宮祈請講
北海道神宮奉賛会
北海道神宮奉賛むすび会
株式会社北海道新聞社
三井物産株式会社北海道支社

三菱商事株式会社北海道支社
佐藤一郎
株式会社NTTドコモ北海道支社
札幌商工会議所
株式会社セコマ
日本中央競馬会ウイーンズ札幌
株式会社トリホールディングス
一番街商店街振興組合
株式会社バルコ
東日本電信電話株式会社北海道事業部
株式会社藤井ビル
株式会社北洋銀行
株式会社北海道銀行
北海道酒類販売株式会社
北海道マツダ販売株式会社
北海道旅客鉄道株式会社
株式会社アインホールディングス
アサヒビール株式会社北海道工場
株式会社アミアップ化学
池田煖房工業株式会社
勇建設株式会社
石屋製菓株式会社
板谷土建株式会社
伊藤組土建株式会社
株式会社伊藤塗工部
今井金商株式会社
株式会社HP1
SOC株式会社
SDエンターテイメント株式会社
遠藤興産株式会社
大友運送株式会社
曲ノ高橋水産株式会社
加森観光株式会社
未来のアグリ株式会社

株式会社芸文館サービス
株式会社玄米酵素
札幌工業株式会社
札幌駅総合開発株式会社
札幌三番街商店街振興組合
札幌信用金庫
札幌第一興産株式会社
札幌土建工業株式会社
新日本通信工業株式会社
大黒目工株式会社
株式会社田中組
株式会社つうけん
つばめ自動車株式会社
フルテック株式会社
株式会社電通北海道
道路工業株式会社
中井聖建設株式会社
社会医療法人医仁会中村記念病院
株式会社ニッセンエスコート
日本栄養食品株式会社
日本清酒株式会社
日本通運株式会社札幌支店
白馬堂印刷株式会社
橋本電気工事株式会社
藤光鋼材株式会社
ホクレン農業協同組合連合会
北海道自動車工業株式会社
北海道エネルギー株式会社
北海道火災共済協同組合
北海道コカ・コーラボトリング株式会社
北海道中央バス株式会社札幌事業部
北海道放送株式会社
株式会社北海道ロビアン商事
丸果札幌青果株式会社
株式会社マルゲンビル

丸水札幌中央水産株式会社
丸彦渡辺建設株式会社
株式会社メディア・マジック
株式会社萌福社サービス
株式会社モロオ
横山食品株式会社
株式会社ラルズ
株式会社アイティ・コミュニケーションズ
寿産業株式会社
株式会社第二ホテル
株式会社リョウワ
北都交通株式会社
札幌ホテル旅館協同組合
山藤三陽印刷株式会社
株式会社石山組
クワハラ食糧株式会社
一般社団法人札幌観光協会
札幌中央アーバン株式会社
札幌テレビ放送株式会社
株式会社数島屋
新栄クリエイト株式会社
株式会社すし善
株式会社スハラ食品
税理士法人知野・寺田会計事務所
セノー株式会社札幌主管支店
中山食品工業株式会社
株式会社はしもと
株式会社北友
北海道クリン・システム株式会社
株式会社丸高青果
安田興業株式会社
株式会社オオイ工務店
北電力設備工事株式会社
株式会社小松
札幌第一観光バス株式会社

株式会社札幌日総建
株式会社藤井工務店
北海道ライナー株式会社
株式会社ホンダ四輪販売北海道
三菱地所株式会社
豊松吉工業株式会社
株式会社アイアイテー
青池水産株式会社
秋津道路株式会社
有限会社アクト警備オフィス
旭イノベックス株式会社
旭運輸株式会社
アサヒ住宅株式会社
株式会社アスビック
株式会社アトリエフンク
株式会社イーストン
池田食品株式会社
特定医療法人柏葉脳神経外科病院
株式会社エース
株式会社エフエム・ノースウエーブ
株式会社エミヤ
株式会社エル技術コンサルタン
株式会社エルム楽器
太田工業株式会社
株式会社大室洗染所
岡本興業株式会社
片桐機械株式会社
株式会社カナリヤ
株式会社カネイ
株式会社キタデン
北日本ビル管理株式会社
株式会社きとのとや
株式会社木村
協信電気工業株式会社
株式会社ケイジー技研

ケント・ハウス株式会社
株式会社構研エンジニアリング
コスモ建設株式会社
株式会社小山製菓所
先本建夫税理士事務所
札幌開発株式会社桑園自動車学校
札幌アイアンス法律事務所
札幌開発株式会社
札幌河辺石油株式会社
札幌警備株式会社
株式会社札幌振興公社
札幌第二交通株式会社
札幌中央信用組合
札幌トヨベツ株式会社
サツドラホールディングス株式会社
札幌パブリック警備保障株式会社
株式会社札幌パ
株式会社札幌北洋カード
札幌エーエヌ新管財株式会社
株式会社札幌流通倉庫
佐藤水産株式会社
株式会社サン広告社
株式会社シー・イー・サービス
ジェイ・アール北海道バス株式会社
上光証券株式会社
株式会社昭和ビル
株式会社食品急送
株式会社食品資材
株式会社全道警備センター
株式会社総合開発設計
大輝印刷株式会社
デザイン設計株式会社
株式会社太平ホーム北海道
大平洋建業株式会社
株式会社滝川自工

竹内建設株式会社
株式会社中華札幌
月寒運輸株式会社
株式会社土屋ホーム
株式会社帝国設計事務所
株式会社テックサプライ
寺町鉄筋工業株式会社
東京美装北海道株式会社
株式会社道新アクティ
株式会社道新サービスセンター
株式会社道新文化センター
TOTO北海道販売株式会社
道都化学産業株式会社
株式会社東洋実業
株式会社トヨタレンタリース札幌
株式会社奈る美
株式会社南香園
西山製麺株式会社
日糧製パン株式会社
日本アークス北海道株式会社
日本アーターサービス株式会社
ネットヨタ札幌株式会社
株式会社博善社
富士ゼロックス北海道株式会社
藤美産業株式会社
藤山倉庫株式会社
株式会社ブラザー輸送
ビルドプロテック株式会社
株式会社フィール
株式会社ベルックス
富久居産業株式会社
株式会社宝石の玉屋
藤井設備株式会社
北央信用組合
株式会社ホクスイ設計コンサル

北明システム株式会社
株式会社ホクレン商事
北海電気工事株式会社
株式会社北海道観光物産興社
株式会社北海道技術コンサルタン
北海道消防機材株式会社
ALSOK北海道株式会社
株式会社北海道日建設計
北海道日産自動車株式会社
北海道ビルサービス株式会社
一般社団法人北海道ビルダング協会
北海道物流開発株式会社
株式会社ほくといホールディングス
北光宮織株式会社
北興化工機株式会社
株式会社ポニー管財
株式会社マキ商会
松岡満運輸株式会社
株式会社丸九泉商店
丸共農産商事株式会社
丸大大金畜産株式会社
ミナミ石油株式会社
株式会社宮田自動車商会
明星自動車株式会社
株式会社村本印房
株式会社メディアプラン
株式会社山口電気機械工務所
株式会社山忠奥山柳造商店
株式会社ワールドウッティ
和光技研株式会社
北陽ビルサービス株式会社



写真撮影：富井純朗氏

北の志づめ 第202号

平成30年6月1日発行

〒064-8505
札幌市中央区宮ヶ丘474
電話 011-611-0261
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所